

# 日本万引防止システム協会

日本万引防止システム協会は6月3日、千代田区六番町の主婦会館プラザエフで「平成26年度通常総会」を開催。84人（委任状含む）が出席した。

山村秀彦会長がはじめに「当協会は万引防止に関する唯一の専門団体。所轄官庁や関連団体と結束しながら小売業の収益管理のお手伝いをしていきたいと思う」とあいさつし開会した。

議案の審議は山村会長を議長に行われ、まず「平成25年事業報告、収支決算」「会費継続」の両議案を可決した。

続いて「平成26年度組織・人事」では任期満了にともなう理事の交代が議題に上り、新理事を選出。さらに推薦のあった戸田秀雄氏が



戸田秀雄新会長

## 防犯にマッチしたシステムを

新会長に戸田秀雄氏

新会長に、三宅正光、松本剛の両氏が副会長に就任した。

最後に「同事業計画、収支予算」を満場一致で可決し、総会は終了した。

ラベル関連の計画では、三宅副会長がEASタグのソースタグイングについて報告。「今年、日本チェーンドラッグストア協会と実証実験を行う。これを家電、自動車用品などの業界へも広めていきたい」と述べた。

総会後に行われた意見交換会で戸田新会長は就任のあいさつを行い「当協会はさまざまな方の協力を得ながら、地道に発展してきた。しかし、万引犯罪は劇的に減少しているわけではない。問題は複雑化している。万引防止システムのユーザーの目的は、快適な売り場環境をつくることだ。当協会会員は犯罪の特性にマッチした新しい機器やサービスの開発をしていかなければならない」と決意を言葉にした。

このほか記念講演では、香川大学教育学部の大久保智生准教授が「実態調査を店舗の万引対策に生かす」、(株)エイジス近江元常務が「正確な棚卸から始まるロス対策」の演題で、それぞれ講演を行った。